

5	<b>健康教育</b>
テーマ	<b>「食育」「保健」「体育」を通じた生活習慣の改善を図る教育</b>
基調	<p>子供たちを取り巻く環境が複雑化・多様化・困難化する中で、家族形態や生活様式の変化の影響により、家庭教育力の低下が見られ、基本的な生活習慣が十分に身に付いていない子供たちが増加している。それに伴い食生活や生活リズムの乱れ、体力や運動能力の低下等、様々な要因が、子供たちの心身の健康に悪影響を与えており、社会全体で解決すべき課題となっている。</p> <p>子供たちが健やかに成長していくためには、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠、適度な運動が大切で、こうした基本的な生活習慣を確立することが学習意欲や体力、気力等に良い影響を与えられている。子供たちの自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図っていくためには、学校と家庭・地域が連携し、「食育」「保健」「体育」の視点から子供たちの生活習慣の改善を進めていくことが重要である。子供たちが生活習慣を自ら改善し、将来社会で自立できる力を身に付けるために、私たち教職員は、子供たちが主体的・協働的に取り組む健康教育の充実に努めなければならない。また、全教職員で児童生徒の心身の健康についてそれぞれの専門性を生かした指導を行いながら、互いに連携し健康教育を推進していきけるような、校内指導体制の構築が重要である。</p> <p>前回大会（山口大会）では、子供自身が自らの心身の健康について考え、改善する方策を探り実践することの大切さや、校内連携・異校種間連携を円滑に行うための、教職員の体制づくりの重要性が確認できた。一方で、子供たちに主体性をもたせるための個別指導について学校全体における体制づくりや、家庭の教育力を高めるための取組を継続していく体制や方法等が課題として挙げられた。</p> <p>本分科会では、山口大会に引き続き、児童生徒が今の生活習慣を見つめ直し、積極的に食や健康、運動について学び、将来を見据え健全な心と体を培うための生活習慣を確立するとともに実践し続けようとする態度を身に付ける方策を探究する。また、健康教育に関わるあらゆる分野から、これらの課題に多面的に迫り、児童生徒の健やかな成長を図るための指導体制の在り方について提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子供たちが主体的、継続的な生活習慣の改善に取り組む指導の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食に関心をもち、栄養バランスを考えてより良い食を正しく選択できる食育</li> <li>② 自らの健康について高い意識をもつことができる学校保健</li> <li>③ 運動習慣を身に付けられる体育等の取組と手立て</li> </ol> </li> <li>2 健康教育を推進するための指導体制の在り方       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教諭、養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員等の専門性を生かした校内連携</li> <li>② 学校と家庭、地域、関係諸機関等との連携</li> <li>③ 異校種間連携</li> <li>④ 健康教育の継続的な指導体制</li> <li>⑤ 保健主事を中心とした校内連携体制</li> </ol> </li> </ol>